

川上奨学金 報告書

1. 論文タイトル

他者と同じものを持つことから生じる感情の検討

2. 論文要旨

本研究は、他人と同じ物を持つ時に生じる感情について研究を行ったものである。また本研究は、予備調査、研究1、研究2から成っている。

予備調査では同じ物を持った時の感情について自由記述を求めた。その結果、ネガティブな感情、ポジティブな感情、ネガティブとポジティブの中間にあたりそうな感情、同じものを持っている人やモノによって変わる感情の四タイプに分かれることが明らかになった。

研究1では、人間関係と偶然性の有無、商品の種類の3要因を組み合わせ、同じものを持った時の感情について検討を行った。その結果、ポジティブな感情かネガティブな感情に関わらず、人間関係が感情反応に大きな影響を及ぼしていることが明らかになった。商品においては、小物より服の方がネガティブな感情に大きな影響を及ぼすことが明らかになった。特に服は小物と比べ、他者から見て「明らかに同じであること」がすぐにわかるため、ネガティブな感情になるのだと考えられた。

次に研究2では、商品へのこだわりと人間関係と商品の価格帯の3要因を組み合わせ、同じ商品を持った時の感情に及ぼす影響について検討を行った。その結果、人間関係に関しては、研究1と同様な結果を得た。しかしこだわりの要因の影響をあまり受けないことが明らかになった。こだわりは各々の考えや思いであり、他者の服装の印象には影響を及ぼさないのかもしれない。価格に関しては、商品の価格の高低によって同じものを持つ時の感情が異なることが明らかになった。嬉しさ感情においては、高価格で同じであること、気軽に買えることのできない値段だからこそ、同じ人を見ると自分も高級品を身にまとうことのできる層であることや「あの人たちと同じ仲間だ」と実感した時の喜びや嬉しさがあることが、価格の高低による差を生み出したのかもしれない。また恥ずかしさにおいては、安物を着ていることの虚しさや「安い」と「品質の悪さ」の連想により、低価格商品を着ていることが同じ物を着ている人から知られるため恥ずかしくなるのだろう。

研究1、研究2の両方から、人間関係が同じ物を持つ時の感情に影響を及ぼすことが明らかになった。その理由として、第一に相手に対する関心度の違いがあると考えられる。第二に、知人や初対面の内面的部分を把握できないことが考えられる。知人や初対面の人は、親しい友人と比較すると内面がよくわからないため、被服から得られる情報が感情に影響

を及ぼすのだろう。このことから、相手と親しい関係であればポジティブな感情、あまり相手と親しくない関係であればネガティブな感情になる傾向がある。

3. 奨学金の主な用途

- ・ 書籍代
- ・ 国会図書館でのコピー代
- ・ 国会図書館へ往復交通費
- ・ 早稲田大学演劇博物館への往復交通費
- ・ 文具（コピー用紙、インクなど）

4. 謝辞

奨学金を給付してくださいました、故川上宏先生とご家族、関係者の皆様に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。